

新編
教育唱歌集

文部省檢定
教育音樂講習會編

第六集

K. 20.73
41a
6

K120.73

41a

6

文部省檢定
明治三十三年二月二十日

新編 教育唱歌集

教育音樂講習會編纂

第六集

東京
開成館藏版



本書の歌曲は主として、諸大家が特に本書のために新
作せられたるものにして、其中特に「音樂學校許可」と註せ
るものは該校が管て高等師範學校附屬の時代に歌曲の引
用を許可したりし時、特に請ひて、本書に轉載すること
を許されたるものに係り、其他の歌曲は「新撰國民唱歌」
及び東京開成館が著作権を有するもの、若しくは本書の
編纂に當りて、當該著作権所有者の許諾を得たるものな
り。

新編教育唱歌集第六集目次

一 紅葉……………	二	九 故郷……………	三三
二 琵琶湖(國定讀本歌詞)……………	三	一〇 思ひ出づれば(音樂學校許可)……………	二六
三 五條の橋……………	六	一一 遠洋漁業(國定讀本歌詞)……………	二九
四 月見……………	九	一二 まとゐ……………	三一
五 風の歌……………	一一	一三 箱根山……………	三三
六 この辭書……………	一三	一四 山げしき……………	三五
七 婦人從軍歌……………	一五	一五 軍港……………	三七
八 白虎隊(國定讀本歌詞)……………	二〇	一六 冬の歌……………	三九

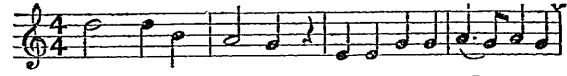
(第六集)

(第六集)

一七 歳暮……………	四一	二六 戦場の月……………	六一
一八 春の歌……………	四三	二七 わがこの身……………	六三
一九 櫻……………	四五	二八 凱旋……………	六五
二〇 鶯……………	四七	二九 鏡なす(音樂學校許可)……………	六八
二一 造化のわざ……………	四九	三〇 强者強國(國定讀本歌詞)……………	七〇
二二 草木のむれ……………	五一		
二三 びらみっど(國定讀本歌詞)……………	五四		
二四 紫式部……………	五七		
二五 華嚴の瀧(國定讀本歌詞)……………	五九		

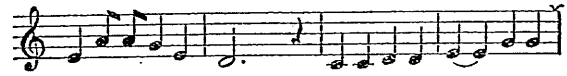
目次 終

紅葉



2- 2 7 | 6-5 0 | 3 3 5 5 | 6-5 6 5 |

(一) サ- ダ メ ナ- ク シガ レ タ リ- タ ル
 (二) な- と め こ- が い- て て こ ひ よ ぶ
 (三) カ- ミ サ ビ- テ ミ- エ ル ヤ シ ロ ノ



3 6 6 5 3 | 2- 0 | 1 1 2 2 | 3 3 5 5 |

ア キ ノ ア メ ニ- イ ロ ツ キ ニ- ケ リ
 い け の う へ に- う つ り て に- ほ ふ
 カ キ ノ ヲ チ ニ- ヒ ト モ ト テ- ラ ス



6- 1- | 2- 0 2 | 6- 5 3 | 2- 0 ||

キ- ヤ- ノ- モ ミ- ゲ- パ-
 に- は- の- も 夕- ち- は-
 モ- リ- ノ- モ ミ- ゲ- パ-

紅葉

(一) さだめなく しぐれて渡る 秋の雨に、

色づきにけり、木々のもみぢ葉。

(二) 少女が いてて鯉よぶ 池の上に、

うつりてにほふ 庭のもみぢ葉。

(三) 神さびて 見ゆる社の 垣のうちに、

ひと本てらす 森のもみぢ葉。

- (一) 近江には琵琶湖とて、その名高き湖水あり。
清らかなるは水の色
見れどあかぬは、八つの景。
- (二) 夕日さす勢田の川、わたる汽車もこゝちよく、
粟津の松の色はえて、
晴れたる空ののどけさよ。」
- (三) 石山の秋の月、雲をさまりて影清し。

琵琶湖

琵琶湖

(一) アフミニハヒセハコト
ウフシニサスノのキツ
イシラキイニツツチ

(二) テソノカキコイキヨ
ハワモサノヘナカ
クモリメチナカ

(三) キヨハナハミゾノイ
アハタラキテサウナ
フカメノオキ

(四) ロミドカスラハヤツケ
テハレタカソカチノレ
ハヒラチクシカミカ

冬の來りて、さく花は、

比良のたかねの暮の雪。

(四) 唐崎のからさき一つ松、ひとつまつ夜の雨よるあめに名なをえたり。

堅田かたたの浦うらの浮御堂うきみどう、

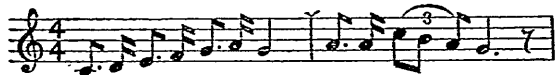
落ち來る雁かりのながめあり。

(五) 三つ五つうちつれて、波なみの上うへを歸り行く

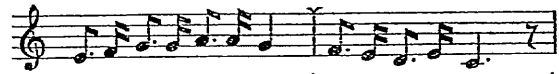
矢走やばせの沖おきの舟人ふねびとは、

聞きしか、三井みみの晩鐘ばんしやうを。

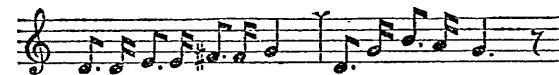
五條の橋



1. 2	3. 1	5. 6	5	0. 6	1 7	6	5.	0
(一)カ	(二)ラ	(三)マ	(四)ノ	(五)テ	ラ	ノ	ノ	
お	も	ふ	げ	ん	じ	の	の	
き	も	セ	モ	ヨ	ラ	ズ	ズ	
さ	ら	バ	ト	ラ	ン	ト	ト	
	テ	ハ	ナ	ン	テ	ハ	ハ	



3.	1	5.	5	6.	6	5	4.	3	2.	3	1.	0
サ	ケ	ヤ	シ	カ	イ	ニ	カ	チ	ル	マ	テ	
て	ん	マ	ン	ク	ー	ル	い	の	ら	ん	と	
い	デ	マ	サ	ヘ	ギ	に	お	ホ	ご	れ	シ	
な	ギ	テ	タ	ツ	ヒ	ル	お	と	ま	ス	カ	
り	シ	ナ	カ	キ	ミ	ニ	マ	シ	マ	レ		



2.	2	3.	3	4.	1	5	2.	5	7.	6	5.	0
ヒ	ル	ハ	ド	キ	ワ	タ	ツ	ム	レ	ハ	シ	
よ	ゴ	ト	に	ワ	マ	チ	ゴ	ー	ン	レ	ハ	
タイ	チ	チ	タ	マ	タ	ノ	ヨ	ン	バ	カ	シ	
シ	マ	ビ	タ	タ	チ	キ	ン	カ	カ	カ	シ	
ユ	シ	ノ	ノ	チ	キ	キ	フ	カ	カ	カ	シ	



1.	1	1 7	6	2.	7	5	6.	6	7.	2	1.	0
ク	ル	レ	バ	ナ	ラ	フ	タ	チ	ツ	ル	ギ	
フ	エ	の	バ	カ	カ	ク	タ	バ	シ	グ	カ	
タ	ナ	ガ	レ	ク	ク	ハ	ヨ	リ	テ	ト	レ	
マ	カ	ト	ハ	ハ	ハ	シ	モ	シ	シ	ミ		
カ	カ	ミ	ハ	ハ	キ	シ	カ	モ	ノ	ミ		

五條の橋

- (一) 鞍馬の寺の稚兒櫻。咲けや、四海にかをるまで。
書は讀經を勤むれど、
暮るれば習ふ、太刀つるぎ。」
- (二) 思ふ源氏の再興を 天満宮に祈らんと、
夜毎にわたる五條橋。
笛の音高く、夜はしづか。」
- (三) おもひもよらず、傍より 出でてさへぎる大法師。」

(第六巻)
増水橋

太刀を給へと呼ばれば、

太刀が欲しくば、寄りて取れ。」

- (四) さらに取らんと、うち振ふ 薙刀つひに落されて、

今ぞひたすら降參の

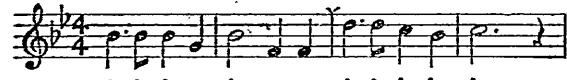
まことあらはす武藏坊。」

- (五) さては汝は辨慶か。牛若君にましますか。

主従の契深かりし

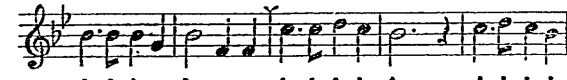
かがみは清し、賀茂の水。」

月 見



| 1. 1. 1. 6 | 1- 5 5 | 3. 3 2 1 | 2- . 0 |

(一) クマナク テーラス アキノツ キー
(二) かがみの ごとき けふの つき



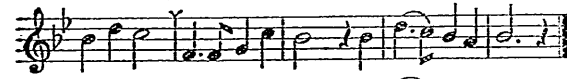
| 1. 1. 1. 6 | 1- 5 5 | 2. 2 3 2 | 1- . 0 | 2. 3 2 1 |

ミチタル カーガ ハケ フヒト ヨー ナミナキ
くもらね か-げし めづらし ヤー わがすむ



| 6- 5 5 | 6. 5 6 1 | 2- . 0 | 5. 5 3 2 |

ミーゾニ フネウケ テー ソラマテ
さ-とを した にし て- うみなも



| 1 3 2- | 5. 5 6 2 | 1- 0 1 | 3. 2 1 7 | 1- 0 ||

ツクー カナバラ ニー サ ナー ササ ン
のぞむ なかやまにー のぼりみー ん

月 見

(一) くまなくてらす秋の月、みちたる影は今日一夜。

波なき水に舟うけて、

空までつづく海原に

さをさゝん。

(二) 鏡のごとき今日の月、くもらぬ影もめづらしや。

わがすむ里を下にして、

海をも望む岡山に

登り見ん。

風の歌



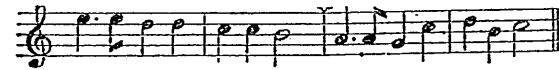
1. 2 3 1 | 3 4 5 5 | 1 7 6 5 3 | 2 2 1 - |

- (一) ノドカニ フキクル ハルカセ ウレシ-
- (二) しづかに ふきくる あきかぜ きびし-
- (三) コトフネ シラアル マツカセ ヤサシ-



1. 2 3 1 | 3 4 5 5 | 1 7 6 5 3 | 2 2 1 - |

- ウメガカ サソヒテ ヤナギノ エダニ-
- かりなく そらより はぎさくのべに-
- ミダルル クモオフ カゼココロヨク-



3. 3 2 2 | 1 1 7 - | 6. 6 5 1 | 2 7 1 - ||

- ソヨソヨ ヲタル アシタノ ケシキ-
- そよそよ わたる ゆふべの けしき-
- ソラウツ ナミマカ カゼオモ シロシ-

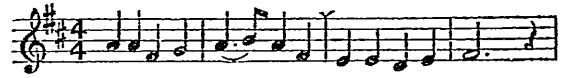
風の歌

(一) のどかに吹きくる 春風うれし。
 梅が香さをひて、 柳の枝にあしたのけしき。

(二) 静に吹きくる 秋風さびし。
 雁なく空より、 萩さく野邊に

(三) 琴の音しらぶる 松風やさし。
 亂るゝ雲おふ 風こゝろよく、
 天うつつ浪なまく 風おもしろし。

この辞書



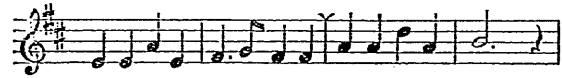
| 5 5 3 4 | 5. 6 5 3 | 2 2 1 2 | 3- 0 |

(一) マナビノ マードノ アサユフ ニー
(二) セがほの きんしじ なつかし くー
(三) トーモノ ナサケヨ シノ オン ヨー



| 1 3 5 i | i. i 7 7 | 6 6 3# 4 | 5- 0 |

ツクエノ カタハラ ヒヂノ サヘー
ベーじに のこれる ゆびの あとー
チカヒテ ナチナシ ミチタテ テー



| 2 2 5 2 | 3. 1 3 3 | 5 5 i 5 | 6- 0 |

ハナレヌ トモコソ コノ ショ ヨー
わがしは これよー このじしよー
オモヘバ タフトキ コノ ショ ノー



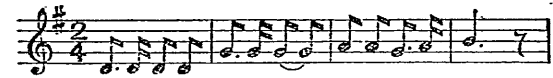
| i. i 7 6 | 5. 5 3 3 | 1 3 2. 1 | 1- 0 ||

ナレシタ シミシモ イクトセ カー
をしハキ うりしは いくだび かー
フーカキ メグ ミチ アダニ セー

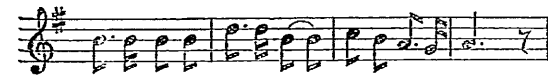
この辞書

- (一) まなびの窓の朝夕に、机のかたはら、膝のうへ、
はなれぬ友こそこの辞書よ。馴れ親みしも、幾年か。
- (二) 背革の金文字なつかしく、ページに残れる指のあと。
わが師はこれよ。この辞書よ。教を受けしはいくたびか。
- (三) 友の情よ。師の恩よ。誓ひて名を成し、身を立てて、
思へばたふときこの辞書の深きめぐみをあたにせじ。

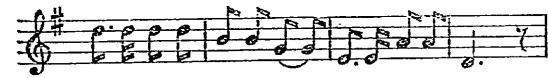
婦人従軍歌



5.5 5 5 | 1.1 1 1 | 2 2 1.2 | 3. 0 |
 (一) ホツツノ ヒビキー トホザカ ル
 (二) わきてー すごき は てきみか た
 (三) ヤガテー シュー ジノー ハタチ タテ
 (四) ましるに ほそきー てをのベ て



3.3 3 3 | 5.5 3 3 | 4 3 2.1 | 2. 0 |
 アトニハムシモリコエタテズ
 ントトサシテニナヒユクリ
 ナがるるちしほー あらひき



5.5 5 5 | 3 3 1 1 | 6.6 2 2 | 5. 0 |
 フキタツカセハナマクサク
 たふれしひとの かほいろは
 テントニマツハヒノモト
 まくやー ほーたいしるたへの



1.2 3 0 | 5.5 3 3 | 1 3 3.2 | 1. 0 ||
 クレナキソメシクサノイロリン
 のーベのくまばにさもいたシ
 ジントーアイトニトムフシ
 るも のそではー あげにそみ

(第六集)

婦人従軍歌

(一) 火筒ほづつの響ひびき遠とほざかる

跡あとには蟲むしも聲こゑたてず。

吹ふきたつ風かぜはなまぐさく、

くれなぬそめし草くさの色いろ。」

(二) わきてすごきは敵味方てきかた

帽子ぼうし飛び去さり袖そでちぎれ、

斃たふれし人のかほ色いろは

野邊のべの草葉くさばにさも似にたり。」

(三) やがて十字の旗を立て、

天幕をさして荷ひ行く。

てんとに待つは、日の本の

仁と愛とに富む婦人。」

(四) 眞白に細き手をのべて、

流るゝ血しほ洗ひ去り、

まくや、縋帯、白妙の

衣の袖はあけにそみ。」

(第六巻)

(第六集)

(五) 味方の兵の上のみか、

言も通はぬあたまでも、

いとねんごろに看護する

こゝろの色は赤十字。」

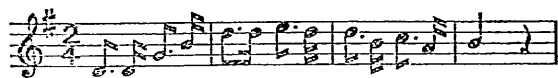
(六) あな、いさましや。文明の

母といふ名を負ひ持ちて、

いとねんごろに看護する

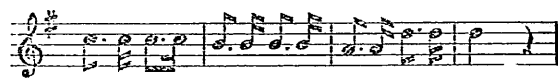
こゝろの色は赤十字。」

白虎隊



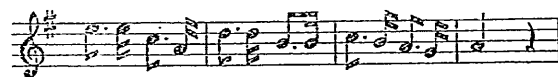
| 5. 5 1. 3 | 5. 5 6. 5 | 5. 3 4. 2 | 3 0 |

(一) アラレノゴートクミダシク
 (二) みかたすくなくてきおほく
 (三) ノコルハワヅカニシユロクシ
 (四) しんしのつとめはこれまでぞ



| 4. 1 4. 1 | 3. 3 3. 3 | 2. 2 5. 5 | 5 0 |

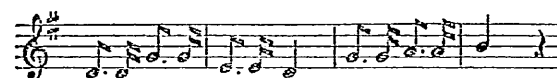
テキノーダンガンヒキウケテ
 ひはくれはててあめくらし
 ヒトタビアトニータチカヘリ
 いでいさぎよくしすべしと



| 6. 6 4. 2 | 5. 5 3. 3 | 4. 3 2. 1 | 2 0 |

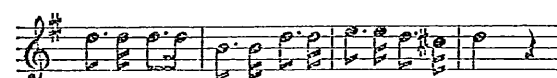
イノチチチリトータタカヒシ
 はーやるゆーきはたわまれど
 シュケンノサイゴニアハバヤト
 まーくらならべてこころよく

白虎隊 (つづき)



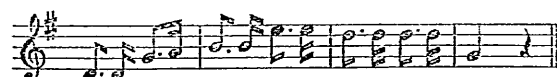
| 5. 5 1. 1 | 6. 6 5. | 1. 1 2. 2 | 3 0 |

サンジューシチノユージョーネ
 つかれしみなばいかにせん
 イヒモリヤマニヨサノホリ
 やいばにふししものがたり



| 5. 5 5. 5 | 3. 3 5. 5 | 6. 6 5. 1 | 5 0 |

コレゾーアヒジノラクジョーニ
 たふるるかばれーながるるち
 ミレバーハヤクモシロホチテ
 つたへていまにーびだんとす



| 5 5 1. 2 | 3. 3 6. 6 | 5. 5 5. 5 | 1 0 ||

ソノナーキコエシビヤコタイ
 たのむーやだましつきはてぬ
 ホノホハテンチーコガシタリ
 ちりたるはなのーかんばしき

白虎隊

(一) 敵のごとくみだれ来る 敵の彈丸ひきうけて。

命を塵と戦ひし 三十七の勇少年。

これぞ會津の落城に

その名きこえし白虎隊。」

(二) 味方少く、敵多く、日は暮れはてて、雨暗し。

はやる勇氣はたわまれど、疲れし身をばいかにせん。

倒るゝ屍流るゝ血。

たのむ矢玉もつきはてぬ。」

(三) 残るはわづかに十六士、一たびあとに立ち歸り、

主君の最期にあはばやと、飯盛山によちのぼり、

見れば、早くも城落ちて、

焰は天をこがしたり。」

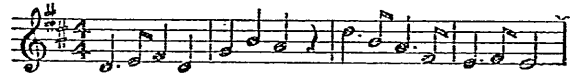
(四) 臣子の務はこれまでぞ、いで、いさぎよく死すべしと、

枕ならべて、こゝろよく 及に伏しし物語、

傳へて今に美談とす。

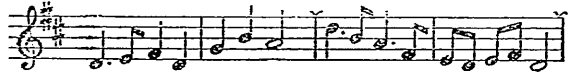
散りたる花のかんばしさ。」

故郷



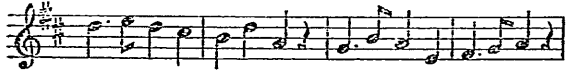
1. 2 3 1 | 4 6 5 0 | 1. 6 5. 3 | 2. 3 2- |

(一) ア ガ フ ル サ ト ノ ユ カ シ キ コ カ ゲー
 (二) わ が ふ る さ と の ゆ か し き か き けー
 (三) ソ ガ フ ル サ ト ノ ユ カ シ キ ハ タ ケー
 (四) わ が ふ る さ と の ゆ か し き な か べー



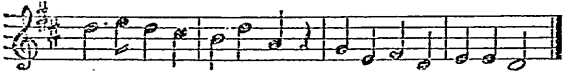
1. 2 3 1 | 4 6 5- | 1. 6 5. 3 | 2 1 2 3 1- |

ム カ シ チ イ マ ハ タ レ ト カ ター ラー ン
 つ ぼ み や も し て う ゑ の つ つー つー じー
 コ ト シ モ ム ギ ハ タ ケ ニ ヤ ノー ビー シー
 と も だ ち つ て あ け くれ のー ぼー リー



1. 2 1 7 | 6 1 5 0 | 4. 6 5 2 | 3. 1 5 0 |

イ モ ト ト ト モ ニ コ シ ウ チ カ ケ テ
 ア こ る な こ め て つ ち か ひ た て し
 お き ゆ く ふ れ の フ エ ナ モ ツ ク リ
 は



1. 2 1 7 | 6 1 5 0 | 1 2 3 1 | 2 2 1- ||

タ ウ エ チ ミ シ モ ソ ノ キ ノ カ ゲ ヨー
 ヤ よ ひ の は る タ し ヲ ノ キ ほ カ れ ヨー
 ヒ バ リ か と い ひ モ の ナ に し き は ソ コー
 と リ か と い ひ し こ る は そ こー

故郷

(一)

わが故郷のゆかしき木陰。むかしを今は誰と語らむ。

(二)

妹と共に腰うちかけて、田植を見しも、その木の陰よ。

(三)

心がこめてつちかひ立てし、やよひの春の錦は、それよ。

(四)

青麥ぬきて、笛をもつくり、雲雀の歌をき、しは、そこよ。

わが故郷のゆかしき岡邊。友だちつれて、あけくれのぼり、
沖ゆく舟の白帆をみては、鳥かといひし處は、そこよ。」

思ひ出づれば



5 | 1- 1 | 2- 2 | 3 5 3 | 2 1 |
 (一) オ モー ヒ イー ツ レ -- ハ --
 (二) あ し た に な れ -- ば --
 (三) エ フ マ ニ ナ レ -- ば --
 (四) あ し た に な れ -- ば --



2 | 3.2 1 | 1 6 5 | 5 6 1 | 2- |
 ミ ト モ ノ ム カ -- シ --
 か ど お し ひ ら -- き --
 ト コ リ チ ハ ヲ -- ヒ --
 か ど お し ひ ら -- き --



3 2 | 1- 1 | 2- 2 | 3 5 3 | 2 1 |
 ヲ カ レ シ ツ ノ -- ヒ --
 ひ か す よ み つ -- し --
 ナ ヨ ビ チ リ ツ -- ツ --
 ゆ ふ へ に な れ -- ば --



2 | 3.2 1 | 1 6 5 | 5 6 1 | 1- |
 ヲ ガ チ チ ハ ハ ノ --
 ち ら ま ち ま さ ん --
 ハ コ マ イ チ マ サ ン --
 と こ う ち は ち ら ひ --

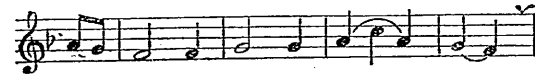
思ひ出づれば (つづき)



3 | 5- 6 | 5 3 1 | 5- 6 | 5 3 |
 カ シ ラ ナ デ ツ -- ツ --
 わ が お も ひ こ -- ば --
 ヲ ガ オ モ ヒ ゴ -- ハ --
 ち ち ま ち ま き -- ん --



1 | 5 3 1 | 5 3 1 | 6 5 3 | 2- |
 マ サ キ ク ア レ -- ト --
 こ と な し は て -- て --
 コ ト ナ シ ハ テ -- テ --
 は は ま ち ま き -- ん --



3 2 | 1- 1 | 2- 2 | 3 5 3 | 2 1 |
 イ ヒ シ オ モ ヲ -- ノ --
 は や い つ し か -- し --
 ハ ヤ イ ツ シ カ -- モ --
 は や く か へ ら -- ん --



2 | 3.2 1 | 1 6 5 | 5 6 1 | 1- ||
 シ タ ハ シ キ カ -- ナ --
 か へ リ コ な ん -- と --
 も へ の コ ナ ン -- ト --
 と の く に ベ -- び --

思ひ出づれば

- (一) おもひ出づれば、三年の昔、
わかれしその日、わが父母の、
頭なでつゝ、眞幸くあれと、
いひしおもわの 慕はしきかな。」
- (二) 朝になれば、門おし開き、
日數よみつゝ、父まぢまさん。
わがおもひ子は ことなしはてて、
はやいつしかも 歸り來なんと。」

(三) 夕になれば、床うちほらひ、

およびをりつゝ、母まぢまさん。

わがおもひ子は ことなしはてて、

はやいつしかも かへりこなんと。」

(四) あしたになれば、かどおしひらき、

ゆふべになれば、床うちほらひ、

父まぢまさん。 母まぢまさん。

早く歸らん、もとの國べに。」

遠洋漁業

5. 5. 1. 1. | 2. 2. 2. 2. | 3. 3. 3. 1. | 2 0 |
 (一) ニッポンの海に無盡の富ありて、波路に行かれぬ所なし。
 (二) 怒れる波は高くとも、吹きまく風はあらくとも、
 (三) 北に南に漕ぎ出でて、すなだるわざも國のため。
 (四) 危き道をおかさずば、勝れし功は立てられじ。
 種々の寶は海にあり。取れど、拾へどつきもせじ。
 思へや、獲物うち積みて、歸る波路の愉快さを。

5. 5. 6. 6. | 5. 3. 1. 1. | 2. 3. 2. 1. | 6 0 |
 フコクノミチチハカルクベシ
 フキマレシイヒサヘハアタツキモ
 スレドノミチハハドテラセシ
 5. 5. 1. 3. | 5. 5. 5. 5. | 6. 6. 5. 3. | 5 0 |
 ウーミニムシノトミアテテ
 シマカヤエモのトココウチマカ
 オハエシメノウチマカテ

3. 3. 1. 1. | 2. 2. 5. 5. | 3. 3. 2. 2. | 1 0 ||
 ナミダニユカザル
 コドニエワイナハカザヘミナル
 ナガクニシメテ
 コノフナメチ
 ナカネシ
 シメチを

(第六集)

遠洋漁業

- (一) 日本男子と生れては、富國の道をはかるべし。
 - (二) 怒れる波は高くとも、吹きまく風はあらくとも、
 - (三) 北に南に漕ぎ出でて、すなだるわざも國のため。
 - (四) 危き道をおかさずば、勝れし功は立てられじ。
- 種々の寶は海にあり。取れど、拾へどつきもせじ。
- 思へや、獲物うち積みて、歸る波路の愉快さを。

(第六集)

まとぬ



| 1 7 6 5 3 | 5 4 3 2- | 1 7 1 3 2 1 |

- (一) タノシキ ハルノカカーンノ
- (二) たのしき なつ の じいんの
- (三) タノシキ アキノグッカノ
- (四) たのしき ふゆの るへの



| 7 1 2 3 2 5 | 1 7 6 5 3 | 5 4 3 2- |

- マートキ カターミニ カタール
- まとぬ かたみに ちぎる
- マートキ タガヒニ シノア
- まとぬ たがひに はげむ



| 1 7 1 3 2 1 | 7 2 1- ||

- ユクテノ ノゾミ
- かはらぬ よしみ
- スギツル ムカシ
- よにたつ つとめ

まとぬ

(一) たのしき春の花間のまとぬ

(二) たのしき夏の樹蔭のまとぬ

(三) たのしき秋の月下のまとぬ

(四) たのしき冬の爐邊のまとぬ

たがひにはげむ 世に立つ勤

箱根山

(一) サガミスルガートイブノクニニ
 (二) セキシなおきてやまこすひと
 (三) コノヤマナカニ鏡のごと
 (四) タビゆくひととまあらば

マタガリタルハコネノヤマ
 しらべしこととまはむか
 ヨクマヘルアソコイ
 ここのななゆあみめりて

ハチノサカトヨニキコエ
 けふれむくあらしふき
 ガスミノマヨリカタチヒ
 くるかぜよきまどのもに

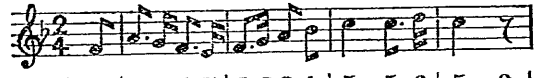
トコロハタコソノマヤ
 コシノフマコチノウソ
 サカサミヤシノアソ
 ムササベミマコチノウソ

(第六巻)

箱根山

- (一) 相模駿河と伊豆の國に
八里の坂と世にきこえし
關所をおきて、山こす人
夕ぐれさむく嵐ふきて、
この山中に鏡のごと、
霞のまより影をひたす
旅ゆく人もいとまあらば、
ふく風きよき窓のもとに、
- (二) またがりたてる箱根の山
處はこゝぞ。このみ山ぞ。
しらべしことも、今は昔。
杉の下道馬も行かず。
清くたへる蘆の湖水。
さかさの富士の、あな面白。
- (三) 箱根の七湯あみめぐりて、
むすべ都の外の夢を。
- (四)

山げしき



1 | 3.2 1.7 | 1.2 3 4 | 5 5. 6 | 5 0 |

(一) コズエニセミーノコエタエテ
 (二) はつたけやまーにわけいれば
 (三) イネカルヒトハタニイテ
 (四) たちまのきーにおとすは



5 | 6.6 4.2 | 5 3 1 | 2 1. 2 | 3 0 |

ハヤサキイヅルノベノハナ
 いろづきそめしはしやしが
 ヌラクサマノイソガ
 あらしにあめかもみちば



5 | 6.6 4.2 | 5 3 1 | 2 2. 3 | 1 0 ||

アキハギキキョーチミナヘシ
 めじろのこかみしきユナえり
 ヌフエノカガのキユルマ
 ひるへやにほのおちぐり

山げしき

(一) 梢こずゑに蟬せみの聲こゑたえて、

(二) 早はやさきいづる野邊のべの花はな、秋萩あきはぎ、桔梗ききょうをみなへし。

(三) 初はつたけ茸山やまに分わけ入いれば、色いろづきそめし林はやしには、目白めじろの聲こゑもきこえけり。

(四) 稲いねかる人ひとは田たにいでて、はたらく様さまのいそがしさ。夕日ゆふひの影かげの消きゆるまで。

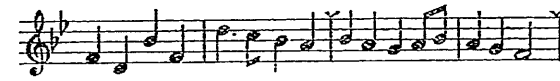
たちまち檐のきに音おとするは、嵐あらしに雨あめか。もみぢばか。拾ひろへや庭にはのおち栗くりを。」

軍 港



| 5 3 i 5 | 3. 2 i 5 | 6 5 i 2 | 3 i 2- |

- (一) ヤ マ ナ ス ク ン カ ン ナ ミ マ ニ ナ ラ ビ
- (二) い づ れ し め い の れ き し に と み て
- (三) セ カ イ ニ キ コ エ ル ヲ ガ カ イ ク ン ノ



| 5 3 i 5 | 3. 2 i 7 | i 7 6 7 i | 7 6 5- |

- ヒ ラ メ ク コ ッ キ ハ ア ラ シ ニ ナ ビ ク
- い で い る ど く の そ な へ も た れ リ
- ヒ カ リ ハ ア サ ヒ ト カ ガ ヤ キ ヲ タ ル



| 2. 2 7 5 | 3. 2 i 6 | 4 3 2 i | i 7 i- ||

- ミ ヨ ミ ヨ ナ ナ シ キ ヲ ガ ク ン コ ー チ
- こ れ こ そ み く に の ま し り の み な と
- コ ク ミ ン イ ハ ヒ テ タ ノ メ ヤ タ ノ メ

軍 港

(一)

山^{ヤマ}なす軍艦^{クワンカン}波^{ナミ}間^マにならび、

ひらめく國旗^{クニノハタ}は嵐^{アラシ}になびく。

見^ミよ。見^ミよ。雄々^{オウオウ}しきわが軍港^{クワンカン}を。

(二)

いづれも名譽^{ナモト}の歴史^{レキシ}に富^{トク}みて、

出^デで入^イる船渠^{フネノミチ}の備^{イソナヘ}も足^タれり。

これこそみ國^{クニ}の守^{マモリ}のみなと。」

(三)

世界^{セカイ}にきこゆるわが海軍^{カイグン}の

光^{ヒカリ}は朝日^{アサヒ}とかがやきわたる。

國民^{クニタチ}祝^{イハヒ}ひて、頼^{ヨリ}めや。たのめ。」

冬の歌

(一) 枯野に立てる一つ松、垣根に残る菊の花
 みさをわくらぶ色と香と。

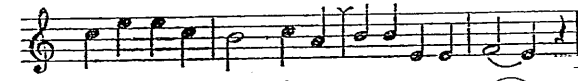
(二) こずゑを見れば色深し。下枝を見れば色浅し。
 時雨も紅葉染め分けぬ。
 時雨も紅葉染め分けぬ。

(三) 降りしき積る今朝の雪、咲きそめにほふ冬の梅
 香にこそ花と知られけれ。

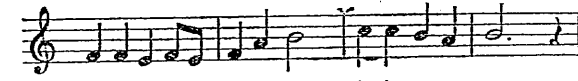
冬の歌



6 7 i 7 | 6- 3 3 | 6 7 i 7 | 6-7 0 |
 (一) カレノニ ターテル ヒトツマ ツ--
 (二) こずゑを みかれば いろふかし--
 (三) フリシキ ツーモル ケサノユ キ--



i 3 3 i | 7- i 6 | 7 7 3 3 | i-3 0 |
 カキネニ ノーコル キクノハ ナ--
 しづえを みかれば いろあさし--
 サキソメ ニーホフ フェノウ メ--



i i 3 4 3 | 4 6 7- | i i 7 6 | 7- 0 |
 ミサチチー クラブー イロトカ トー
 しぐれも しみぢー そめわけ むー
 カニコソ ハナトー シラレケ レー



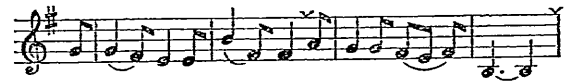
3 3 i 7 | 6- 7 3 | 6 7 i 7 | 6- 0 |
 ミサチチー クラブー イロトカ トー
 しぐれも しみぢー そめわけ むー
 カニコソ ハナトー シラレケ レー

歳暮



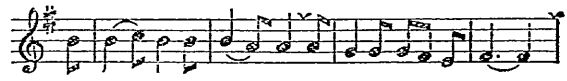
3 | 6 7 1 7 | 6 3 3 3 | 4 3 3 2 1 | 7 . 7 |

(一) ユ キー コホ レー ア ラシサ - A ク -
(二) か へ - リ み れ - ば こ と し の - う ち -



1 | 1 7 6 6 | 3 7 7 2 | 1 1 7 6 7 | 3 . 3 |

コ ト - シ モ ハ - ヤ ク レ ニ ケ - - ヲ -
ナ ナ - み し わ - ざ い く ば く - - ゴ -



3 | 3 4 3 3 | 3 2 2 2 | 1 1 1 7 6 | 7 . 7 |

ハ ル - ノ サ ク - ラ ア キ ノ モ - ミ ゲ -
の ゴ - み お ほ - き は る は ま - へ に -



3 | 6 7 1 7 | 6 3 3 3 | 3 7 1 7 | 6 . 6 ||

タ ダ - ユ - ノ - ノ コ コ チ シ - テ -
ま れ - き - つ - つ た て る な - リ -

(第六巻)

歳暮

(一) 雪こぼれて、嵐さむく、

ことしもはや暮れにけり。

春のさくら、秋のもみぢ、

ただ夢のこゝちして。」

(二) かへり見れば、今年の内、

すゝみし業いくばくぞ。

望おほき春は前に

まねきつゝたてるなり。」

(第六巻)

春の歌

5 | 5. 3 1 | 2 3 6 5 | 1 2 3 4 | 5. 5 0 |
 (一) イケニコホリノアトキエテ
 (二) にほふあさひのかげうけて
 5 | 5. 3 1 | 2 3 6 5 | 1 2 3 2 | 1. 1 0 |
 サチノヒレフリュターカナヤ
 にほにほのこるゆきもなく
 2 | 2. 3 2 2 3 | 3. 4 3 3 4 | 6. 4 3 2 | 3. 3 0 |
 ナギサノアシモツノガミテ
 はらうちのばしとぶとびの
 3 | 3 2 1 7 | 1 2 3 5 | 1. 2 3 4 5 6 | 5. 5 0 |
 ナツサフチシノユメゴコロ
 こゑもかすめるおほぞらは
 5 | 5. 3 1 | 2 3 6 5 | 1 2 3 2 | 1. 1 0 ||
 イマハノドカニナリヌラシ
 はるのかどりをつつむかな

(第六集)

春の歌

(一) 池に氷のあと消えて、魚の鱗ふりゆたかなり。
 なぎさの蘆もつのがみて、
 なづさふ鴛鴦の夢ごころ

(二) 句ふ朝日のかげ受けて、庭には残る雪もなく、
 羽うち伸ばし飛ぶ鳶の
 聲もかすめる大ぞらは、
 春のみどりを包むかな。

(第六集)

櫻

- (一) 吉野の山を見渡せば、櫻ならざるかたもなし。
やまと心の花ざかり、仰げや、異郷の人々も。」
- (二) 吹けども風は静なる わが日の本の春の空。
花か霞か。白雪か。朝日の光は千里まで。」
- (三) 散るべき時に散りてこそ、武士は譽の花も咲け。
大和心をあらはして、にほふか、吉野の山櫻。」

櫻

Three vocal parts and guitar accompaniment for the song 'Sakura'. The score includes a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/4 time signature. The lyrics are written in Japanese with furigana above the characters. The guitar part is indicated by numbers 1-6 on the strings.

(一) ヨシノノヤマチーミツタセバー
(二) ふけどもかぜはしづかなる
(三) チルベキトキニチリテコソ

サークラナラザルカタモナシ
わがひのしとのほろのそら
アーシハホマレノハナモサケ

ヤーマトゴコロノハナザカー
はなかがすみかしらゆきか
ヤーマトゴコロチアラハシター

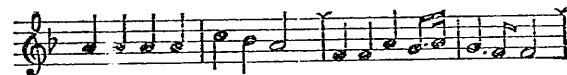
アフダヤイキョーノヒトビトモ
あさひのひかりはちさとま
ニホフカヨシノノヤマザケラ

鶯



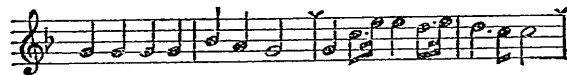
| 3 3 3 3 | 5 4 3- | 1 1 2 2 | 4 3 2- |

(一) サカヨニ ニホフツガスマヤドノ
(二) くもかと みゆるわがやのかどの
(三) イトヨリ ナガキアノカハバタノ



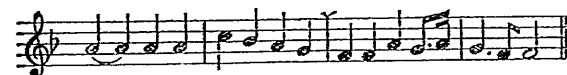
| 3 3 3 3 | 5 4 3- | 1 1 3 2.3 | 2.1 1- |

ノキハノウメノイロカチシダヒ
さくらのえだにーとびうつりきてー
ヤナギノエダノスタレノサチニ



| 2 2 2 2 | 4 3 2- | 2 5. 7 7 6. 7 | 6. 5 5- |

ナクウグヒスノツノコエノヨサ
なくうぐひすのーそのあいーらしさ
ナクウグヒスノツノウツクシサ



| 3 3 3 3 | 5 4 3 2 | 1 1 3 2.3 | 2.1 1- |

ケーサモアサヒノサンイデーシヨリ
げーふもゆふひのさしいりーしまでー
ナルノヒナガクイトタノシゲニ

鶯

(一) さかりに匂ふわがすむ宿の 檐端の梅の色香をしたひ、

なく鶯のその聲のよさ、 けさも朝日のさしいでしより。」

(二) 雲かと思ゆるわがやの門の 櫻の枝に飛びうつり来て、

なく鶯のその愛らしさ、 けふも夕日のさし入りしまで。」

(三) 絲よりながきあの川端の 柳の枝の簾のうちに、

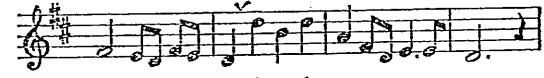
なく鶯のその美しさ、 春の日長くいと楽しげに。」

造化のわざ



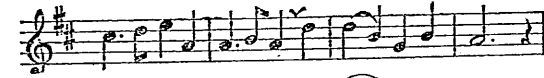
3-2132 | 1 i 6 i | 5 5 3 1 | 2- . 0 |

(一) ミーヤーマー ノオクノ ヤマビコ ノー
 (二) ついでに をまもる ほるとあ きー
 (三) イーブーミー モカハモ ヲナバラ モー
 (四) むかーしー もいまと ああつち のー



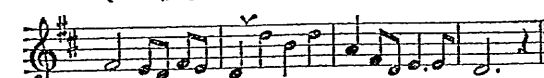
3-2132 | 1 i 6 i | 5 3 1 2.2 | 1- . 0 |

コターヘー カタニニ キコユル ハー
 かたにみー にめぐる よるとひ るー
 ムーモーパー ノボリテ クモトナ リー
 さまはー ももちと かはれど もー



7. 1 2 5 | 5. 6 5 i | i 6 4 6 | 5- . 0 |

クモマニ ミユルニ シーノハ シー
 みちては かくるつ きーかげ しー
 クモマタ ヒエテア メー トナ リー
 ゴーかの かみの おほーみて にー



3-2132 | 1 i 6 i | 5 3 1 2.2 | 1- . 0 |

アターセー ルヒトヤ タレーナラ ンー
 みなーがー ちかみの おきてな リー
 アーメーマー タイミ ヤシナヒ ツー
 あーやーつー るいと はみだれす しー

(第六集)

造化のわざ

(第六集)

(一) 深山のおくの山彦の こたへか谷に聞ゆるは。

雲間に見ゆる虹のはし、わたせる人やたれならん。」

(二) ついでを守る春と秋、かたみに廻る夜と晝、

満ちては缺くる月影も、皆から神のおきてなり。」

(三) 泉も河も海原も、蒸せば昇りて雲となり、

雲またひえて雨となり、雨また泉やしなひつ。」

(四) 昔もいまも天地の 様は百千と變れども、

造化の神の大御手に あやつる絲は亂れずも。」

草木のむれ



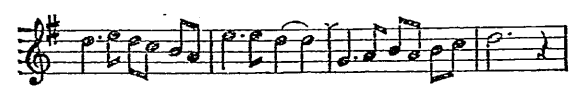
| 1 3 2 1 6 | 5. 6 5. 3 5 - | 6. 5 6 1 2 3 | 2 - 0 |

(一) ミツタース ノーペーノココカーツー コー
(二) くさむーら はーやーしーこころーなーきー
(三) ヨメナニ マーヅルツク ツクー ヂー



| 1 3 2 1 6 | 5. 6 5. 3 5 - | 6. 5 6 1 2 3 | 1 - 0 |

シタルツ サーキーノモリハナー シー
むれとーよそーめーにーみゆれーどーもー
マツニーマツーハールツタカーツー ラー



| 5. 6 5. 4 3 2 | 6. 6 5 5 | 1. 2 3 2 3 1 | 5 - 0 |

ハナウーツク シクー ハムアチー クー
かーげーもーひなたも すきすーきー にー
ツクアーノーヒマチー モトメーツー ツー



| 5 1 3 2 1 6 | 5. 6 5. 3 5 - | 6. 5 6 1 2 3 | 1 - 0 ||

コトーリーハウターヒーチョーハマー フー
えらーむーすみかーにーほかなーらーずー
アガミーチキークーゾーオモシロー キー

草木のむれ

(一)

見渡す野邊のこゝかしこ、

茂る草木の森林、

(二)

花美しく、葉は青く、

小鳥は歌ひ、蝶は舞ふ。」

(三)

くさむら林、心なき

群とよそ目に見ゆれども、

(四)

陰も日向もすすきに、

選む棲處に外ならず。」

(五)

嫁菜にまじる土筆、

松にまつはる蔦かづら、

(六)

わづかのひまを求めつゝ

わが身を置くぞ面白き。」

(四) 同^{おな}じ種^{しゅ}類^{るい}の集^{あつまり}も 作^{つく}る、杉^{すき}山^{やま}薄^{うす}原^{はら}。

互^{たがひ}に風^{かぜ}を防^{ふせ}ぎあふ 力^{ちから}は強^{つよ}し、獨^{ひたり}より。」

(五) 野^の山^{やま}海^{うみ}川^{かは}、それぞれに、 定^{さだま}るおのが宿^{やど}しめて、

地球^{ちきゅう}の上^{うへ}に榮^{さか}え行^ゆく、 わが植^{しょくぶつ}物^{ぶつ}の一^{いっ}世^せ界^{かい}。」

(六) 水^{みづ}に水^{みづ}草^{くさ}、岩^{いは}に苔^{こけ}、 腕^{うで}のたくみの豊^{ゆたか}さよ。」

わたくしならぬ天然^{てんねん}の 蟲^{むし}には種^{たね}を運^{はこ}ばせて、

(第六集)

(第六集)

びらみっど



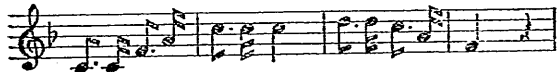
| 5. 5 5. 6 | 5. 3 1. 1 | 2. 2 2. 7 | 5 0 |

(一) エジプトタイコノ アンメイノ
(二) ヤーまとみゆれど びらみっど
(三) ダイナルイッキー キンクニハ



| 5. 7 5. 7 | 2. 2 2. 2 | 3. 3 2. 2 | 5 0 |

オモカゲ ノコルー ヒラミツド
いしもて たたみー きづきたる
シューマン ニンノー タユミナク



| 5. 5 1. 3 | 5. 5 5 | 6. 6 5. 3 | 1 0 |

ナイルノ キシノ チチコチニ
ほーすいけいの とーにして
サンシュー ネンモ カカリテソ



| 3. 1 5. 5 | 6. 6 5 | 3. 3 2. 3 | 1 0 |

ヤマカト バカリ ヲキ
だいしーおよそ しちじっ
ナシトダ ベキト ヨニハイ

びらみっど

五四

びらみつど

- (一) えじぶと太古の文明の面影残るびらみつど、
ないるの岸のをちこちに、
山かとばかり聳えたり。」
- (二) 山と見ゆれど、びらみつど、石もて疊み築きたる
方錐形の塔にして、
大小およそ七十基。」
- (三) 大なる一基築くには、十萬人のたゆみなく

三十年もかゝりてぞ、

成しとぐべきと世にはいふ。」

- (四) そも、この塔はえじぶとの國王一家の墓にして、

その墓ごとに石柩を

地下のむろにぞをさめたる。」

- (五) 石柩中のなきがらは、三千年後の今もなほ

くづれ、くされず、そのまゝに、

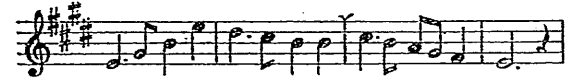
みーらとなりて、残るとぞ。」

紫式部



3 5 1̇ 7 | 6. 7 5- | 4. 4 3 2 | 5- 0 |

(一) ヨニカケハシクワルハシキ
(二) わがぶんがくのはなざくら
(三) アーイシヤモノアキノツキ



1. 3 5 1̇ | 7. 6 5 5 | 6. 5 4 3 2 | 1- 0 |

アラサキシキアノフテノアト
とづくにまでもにほひつ
ヒカリハチヨニクモルマツ



2. 2 3 1 | 4. 3 2 3 | 4. 3 4 6 | 5- 0 |

ヨミテタレカハメテザラ
キヨキみさなともしる
アフザヤキミノガクモンチ



1̇ 1̇ 7 6 | 5. 5 6 4 | 3 2 5. 5 | 1- 0 |

シヤテタレカハホメザラ
そのなはながくかゝる
シタヘヤキミノトツコ

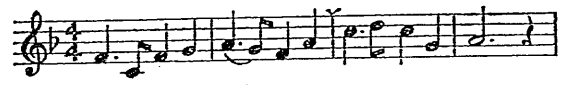
紫式部

(一) 世に芳しく美しき紫式部の筆のあと、
 讀みてたれかは愛でざらん。知りてたれかはほめざらん。

(二) わが文學の花ざくら、外つ國までもにほひつゝ、
 清き操ともろともにその名は永くかをるらん。

(三) あし、石山の秋の月光は千代に曇るまじ。
 仰げや、君の學問を。慕へや、君の徳行を。

華嚴の瀧



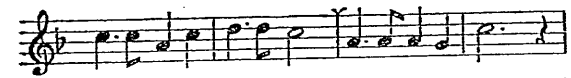
1. 5 1 2 | 3. 2 1 3 | 5. 6 5 2 | 3- 0 |

(一) キ シュー ノ ナー ナ ト モ ロ ト モ ニー
(二) お ち くる みーづ は し ら ぬ の なー



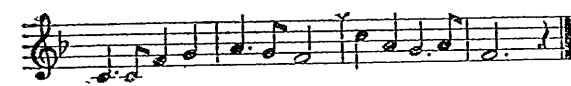
5. 6 5 3 | 2. 1 2 3 | 1. 6 6 5 | 5- 0 |

ソー ノ ナ シ フ レ シ ニ ッ コー ノー
そーらに かけたる こゝちし てー



5. 5 3 5 | 6. 6 5- | 3. 3 3 2 | 5- 0 |

ケ コ ン ノ タ キ ハー ソ ノ タ カ サー
か み な り ひ び きー ゆ き く だ げー



5. 5 1 2 | 3. 2 1- | 5 3 2. 3 | 1- 0 ||

サン シュー ヨ ショー ア ヲ ト イ フー
と び ち る あ わ け た に に み つー

華嚴の瀧

(一) 紀州の那智と ともに、
その名知られし 日光の

華嚴の瀧は、その高さ、

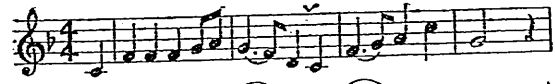
三十餘丈ありといふ。

(二) 落ち来る水は、白布を
空にかけたるこゝちして、

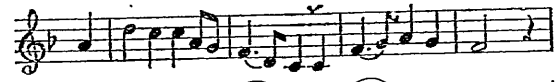
雷ひびき、雪くだけ、

飛び散る泡は、谷にみつ。

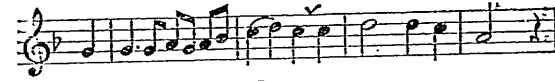
戦場の月



5 | 1 1 1 2 3 | 2 . 1 6 5 | 1 . 2 3 5 | 2 - 0 |
 (一) ガ フ ル サ ト ニ シ ツ キ ノ
 (二) す す め す め の ゴ ー れ い に
 (三) サ ン ゾ シ ゴ モ タ カ ヒ テ
 (四) の も せ に ち り し く も の の ぐ た



3 | 6 5 5 3 2 | 1 . 6 5 5 | 1 . 2 3 2 | 1 - 0 |
 コ ヨ ヒ マ カ リ ハ タ ダ ナ ラ テ
 の こ え や ま こ ー え た に こ え て
 ヨ ハ ノ ボ ノ ト シ ラ ム コ ロ
 て ら す ざ ん げ つ う す く し て



2 | 2 . 2 3 2 3 4 | 5 6 5 5 | 6 - 6 5 | 3 - 0 |
 テ キ キ タ ル ト マ ツ ホ ド ニ
 い り つ み だ れ つ た た か へ ば
 テ キ マ コ ラ ー ヘ ズ シ ヨ シ ケ バ
 と ほ く い な な く こ ま の こ ゑ



5 | 1 1 1 2 3 | 2 . 1 6 6 | 5 . 3 2 3 | 1 - 0 ||
 ミ チ ツ ラ ヌ ク ラ ヲ ノ オ ト
 つ き は や う や く か た ぶ き め
 カ サ ド キ ソ ク ヤ ミ カ タ ノ シ
 お くる あ き か ー ぜ こ こ ー ち よ し

戦場の月

(一) わがふる郷に見し月の、今宵ばかりはただならで、

敵や来ると待つほどに、耳をつらぬく喇叭の音。

(二) 進め、すゝめの號令に、野こえ、山こえ、谷こえて、

入りつ、亂れつ、戦へば、月はやうやくかたふきぬ。

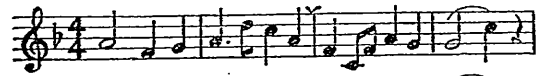
(三) 三合四合も戦ひて、夜はほのぼのとしらむ頃、

敵はこらへず退けば、かちどき湧くや、み方の陣。

(四) 野もせにちりしく物の具を、照す残月淡くして、

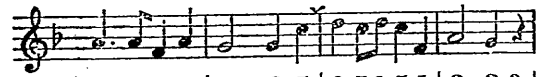
遠くいなく駒の聲、送る朝風こゝちよし。

わがこの身



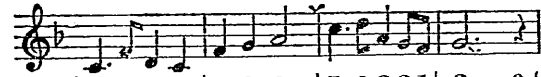
3-1 2 | 3-6 5 3 | 1 5 1 3 2 | 2-5 0 |

(一) オ-キ ノ タ マ ヒ シ ヲ ガ-コ ノ ミ-
(二) キ-ミ に さ ま げ し わ が-こ の み-



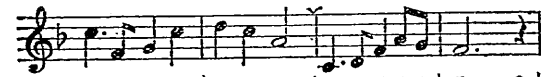
3. 3 1 3 | 2- 2 5 | 6 5 6 5 1 | 3-2 0 |

カ ミ ヒ ト ス- ガ モ ナ ホ-チ シ カ-
ち の ひ と し- づ く げ に- た ふ と-し



5. 1 6 5 | 1 2 3- | 5. 6 3 2 1 | 2- 0 |

タ ゲ イ タ ノ ラ ニ- ヲ シ ナ ハ- バ-
そ の み ち な ら で- な が し な- ば-



5. 1 2 5 | 6 5 3- | 5. 6 1 3 2 | 1- 0 |

フ コ- ノ ツ ミ ハ- ノ ガ レ コ- シ-
ふ ち の- の せ め は- ま め か れ- じ-



1 2 1 3 2 2 | 5- 0 | 6 5 1 2 3 2 | 1- 0 ||

コ- コ- ロ セ ヲ- ヒ- ト- ヒ ト ヲ-
つ- つ- し め ヤ- ひ- と- び と よ-

わがこの身

(一) 親の賜ひしわがこの身、髪一筋もなほ惜しかり。

ただいたづらに失はば、

不孝の罪は逃れ得じ。

こゝろせよ。人々よ。」

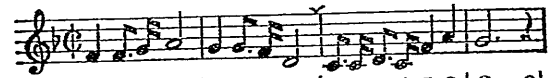
(二) 君に捧げしわがこの身、血の一滴に貴し。

その道ならで流しなば、

不忠の責はまぬかれじ。

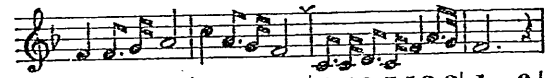
つゝしめや。人々よ。」

凱 旋



1 1.2 3 | 2 2.1 6 | 5.5 6.5 1 3 | 2-0 |

(一) テッ コー フクシ テーキイギハカテ リー
 (二) かみにはきみのみむはにかなひ
 (三) リクニモウミニモータタカフゴトニ
 (四) こくみんむげんのかんしんになひ



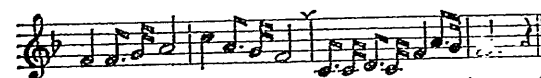
1 1.2 3 | 5 3.2 1 | 5.5 6.5 1 3.2 | 1-0 |

ト ア ノー テンチ ニー クモキリハネー テー
 しもにはたみののぞみなとげー てー
 ケー ノー コー リーヘイノー ツヨキモクジョー キー
 にー んげんしじーのー めいよかおひー てー



2 2.3 5 | 3 3.1 2 | 3 3.2 1 3 | 2-0 |

フタタビミハタノーアサヒカーゲー
 こくないかんこのこゑのうちはに
 セカイノータンビノーコエノウチニ
 けふしむわがぐんかへりきたる



1 1.2 3 | 5 3.2 1 | 5.5 6.5 1 3.2 | 1-0 |

ヘイソノーイロニゾーカガヤキタールー
 ちほーじつーゆーぶのわがぐんかへールー
 ジョーショムテキノーリガケンカへールー
 めでたきがいせんーいほひてうたーへー

凱 旋

(一) 敵國伏して、正義は勝てり。
 ふたゝび御旗の朝日影、
 (二) 上には君の御旨にかなひ、
 國內歡呼の聲のうち、
 (三) 陸にも海にも、戦ふごとに、
 世界の嘆美の聲のうち、
 (四) 國民無限の感謝を荷ひ、
 今日しもわが軍かへり来る。

東亞の天地に雲霧はれて、
 平和の色にぞ輝きわたる。
 下には民の望を遂げて、
 忠實勇武のわが軍かへる。
 堅甲利兵の強きも挫き、
 常勝無敵のわが軍かへる。
 人間至上の名譽を負ひて、
 めでたき凱旋祝ひて、歌へ。

鏡なす



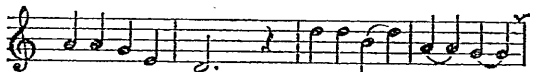
| 5 5 3 2 3 | 5- 0 | 6 6 7 7 | 6 6 5 3 |

(一) カガミナースー ミーヅモミドリノ
(二) ふるゆきーにー きこりのみーちも



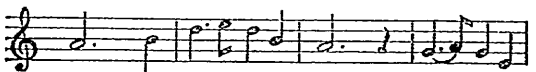
| 2 2 7 7 | 6- 0 | 7 7 2 2 | 3- 5 5 |

カガツルー ヤナキノイトノ
うもれけりー みやまのおくの



| 6 6 5 3 | 2- 0 | 2 2 7 2 | 6 6 5 5 |

エダチヌー キハレーテハ
ゆふまぐれー かざせるかきには



| 6- 7 | 2 3 2 7 | 6- 0 | 5 6 5 3 |

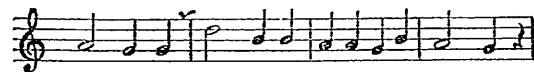
カセシンリュー ノー カミチ
かげもーなー きー つーきを

鏡なす (つづき)



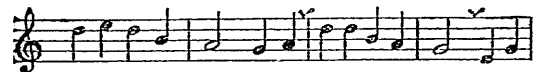
| 2- 3 5 | 6 6 5 7 | 2 2 7 7 | 6 5 3 5 |

ケツリ コーホリ キエテハナミキユ
やどしになへるしほにはかーをら



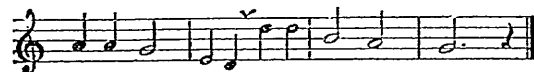
| 6- 5 5 | 2- 7 7 | 6 6 5 7 | 6- 5 0 |

タイノ ヒーダチアラフトカヤ
ざーるー はーなたたるとかーや



| 2 3 2 7 | 6- 5 6 | 2 2 7 6 | 5- 3 5 |

ゲニオモ シーロノクシキヤ ナーゲニ
げにおもしーるのけしきやなーげに



| 6 6 5- | 3 2 2 2 | 7- 6- | 5- 0 ||

オモシーロノクシキヤ ナー
おもしーるのけしきやなー

鏡なす

(一) 鏡なす水も緑のかげうつる。

柳の絲の枝をたれ、

氣霽れては、風新柳の髪を梳り、

氷消えては、浪舊苔の髭を洗ふ、

とかや。げに面白の景色やなげに面白の景色やな。

(二) 降る雪に、樵夫の道も埋れけり。

み山の奥の夕まぐれ、

かさせる筧には、影もなき月を宿し、

になへる柴には、香らざる花を手折る、

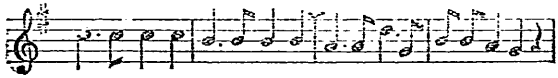
とかや。げに面白の景色やな。

強者強國



1. 1 1 1 | 1. 5 1 3 | 5. 6 5 3 | 1. 2 3 0 |

(一) キョー シヤ ソン シ テ シヤ ク シヤ ホ ロ ビ
(二) しん たい つ よ く て わ づ ら ひ し ら す
(三) コ ク ミ シン ア ヒ ソ シ シ ッ キョー サ カ エ
(四) きょー しや そん して じやー く しや ほ ろ び



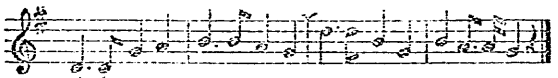
1. 1 1 1 3. 3 3 3 | 2. 2 5. 1 | 3 3 2 1 0 |

キョー コ ク サ カ エ テ シヤ ッ コ ク オ ト ロ フ
い し ま た つ よ く て も く て き し お ほ す
へー イ ビ タ ラ ヒ テ コ ク イ カ ゲー ヤ ク
きょー こ く さ か え て じやっ こ お と ろ ぶ



5. 5 5 5 | 5. 5 3 1 | 2. 2 1 3 | 5 6 1 5 0 |

ア ー シン チ ヒ ラ ケ シ ソ ノ ト キ コ ノ カ タ
コ ー レ ゼ きょー しや ぞ きょー しや ほ ぼ だ ー の
コ ー レ ソ キョー コ ク キョー コ ク ハ イ チ ー ノ
い ー で ヤ ひ と び と きょー しや と な れ ー ヤ



5. 5 1 2 | 3. 3 2 1 | 5. 5 3 1 | 3 2. 2 1 0 |

タ ー レ カ イ ノ コ カ コ ノ リ ニ ハ ソ レ シ
し ろ き と き な る に か か ぼ ー の か ほ
ニ ー シ ト き な る に か か ぼ ー の か ほ
な ー リ て こ の く に つ よ か ら し め

強者強國

(一) 強者存して、弱者滅び、
 強國榮えて、弱國衰ふ。
 天地開けし、その時、このかた、
 たれか、いづこか、この理にはづれし。
 (二) 身體強くて、わづらひ知らず、
 意志また強くて、目的しおほす。
 これぞ強者ぞ。強者ははだの
 白きと黄なるに、かゝはるものかは。」

(三) 國民あひ和し、實業榮え、
 兵備たらひて、國威かがやく。

これぞ強國。強國は位置の
 西と東に、かゝはるものかは。」

(四) 強者存して、弱者滅び、
 強國榮えて、弱國衰ふ。

いでや、人々。強者となれや。
 なりて、この國、強からしめよや。」

教育唱歌全八册

明治二十九年一月二日第一集 印刷
 明治二十九年一月十日第一集 發行
 明治二十九年五月十五日第二集 印刷
 明治二十九年五月廿六日第二集 發行
 明治二十九年八月一日第一集訂正再版發行
 明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版發行
 明治三十年十二月十五日第二集訂正再版發行
 明治三十年十二月廿五日第一集訂正再版發行
 明治三十一年七月五日第二集訂正再版發行
 明治三十八年八月十七日修正五版發行
 明治三十九年一月廿五日訂正六版印刷
 明治三十九年一月廿八日訂正六版發行

定價各册金拾八錢

著作權所 著 蔡拔

編譯者 教育音樂講習會

發行所 西野虎吉
 東京市小石川區小日向水道町七十三番地

印刷者 野村宗十郎
 東京市京橋區築地三丁目十五番地

發行所 東京關成館
 東京市小石川區小日向水道町七十三番地
 電話特番町三五五番

發行所 大阪關成館 三木佐助
 大阪市心齋橋通北久寶寺町角

發行所 林平次郎
 東京市日本橋區通三丁目
 電話特番 六合館

小林